

第1回宗像市幼児教育審議会議事録（要点筆記）

日 時：令和2年9月4日（金）18時00分～19時30分

場 所：宗像市役所103A会議室

出席者：船越会長、高杉副会長、納富委員、牛島委員、井手委員、大和委員、
原田委員、井中委員、安枝委員、荻野委員、棚橋委員

事務局：高宮教育長、（子どもグローバル人材育成部）徳永部長、（子ども育成課）本
田課長、（教育政策課）名切指導主事、（子ども育成課）賀来参事、田中係長、
三吉

【会議内容】

1 挨拶

（教育長、会長よりあいさつ）

2 委嘱状の交付

（新型コロナウイルス感染予防のため省略）

3 委員、事務局の紹介

（審議会委員の自己紹介及び事務局職員の紹介）

4 議事録について

作成方法が①全文筆記 ②発言者の発言ごとの要点筆記 ③会議内容の要点筆記のうち、③の要点筆記で行う旨、確認された。

5 報告事項

事務局から説明（説明内容は省略）

- ・第3期宗像市幼児教育振興プログラムについて【パンフレット】
- ・令和2年度幼児教育事業について【資料1、2】

6 協議事項

事務局から説明（説明内容は省略）

- ・宗像市幼児教育振興プログラムを推進するため、育てたい幼児像について

【委員からの意見】

・子どもたちには色々なことに挑戦する心、そして、挑戦して失敗を繰り返しながらも再度挑戦する。そういうたくましさを求めたい。子どもたちにはトライアンドエラーで試行錯誤をどんどん繰り返していく子どもたちになって欲しい。

- ・意欲とか探求心などの非認知的な能力を育むことが大切。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が示されており、これは学習指導要領につながっている。遊びを通した自立心が大切。行事での司会、分担など役割を持たせるとか、自分で目的をもって取り組むことを、しっかり支えることが保育者の立場では大切になってくる。

- ・幼児教育の目指す姿として子どもたちが遊びを楽しむ力を育てたい。全ての活動に子

どもたちが参加しないといけないとは思っていない。子どもたちそれぞれの目標を作って取り組んでトライして、達成感を育てていくことが大切。全ての子どもたちが幼児教育の機会を得ることができるのかは皆さんと一緒に考えていきたい。

- ・遊びを見つけて遊びこむ、そこに自ら育つ力がつくのではないかとと思っている。保育園、幼稚園、小学校、現場だけではなく地域に安心して遊べる場所を作ることが宗像市にとって大切。

- ・私たちは、子どもたちに心を育てていきたいと思いますと言っている。

- ・保育所指針が改訂されて0、1、2歳児からの保育が大切と言われている中で、応答的な保育や共感するなど、子どもたちの思いをしっかりと受け止めることが大切になってきているし、私たちも忘れてはいけないと思っている。自分で考えて行動することが出来るように、私たち保育士は子どもたちに指示してしまいがちだが、そうではなく子どもたちが考えて行動ができるような環境を整えている。

- ・あえて2点育てていきたいと思う力は、一つは何度失敗しても起き上がる力、もう一つは人の話を聞く力。子どもたちには大きくなって好きなことをたくさん自分で見つけて欲しい。

- ・家では経験できない事を保育園で経験、体験させてもらっている。迎えに行くたびに家では出来ないようなことを保育園ではやっていることがわかるので嬉しい。自然が多いこの環境を利用して子どもがたくさん経験してもらえたらと思ってる。

- ・生活リズムを整えている子どもは問題なく育っていくのではないかとと思っている。保護者の声掛けひとつで子どもの反応が違うというのを日々感じている。声掛けの大切さを伝えていっているが幼児教育の中でも先生達にしっかりと伝えていってもらえればと思う。失敗してもそこから立ち上がっていける力をつける事が人生で大切、転んで立ち上がれる力は一番の支えになる。

- ・これから変化がやってくる社会でいろいろなことが起きるときに自ら考えたり、今持っている情報を使いながら判断したり表現できる力がとっても大切で、**レジリエンス**といって大変重要な力である。一人一人の才能とか、好みとか、それに没入することを保証しながら、子ども自身が自分のよさに気づき、ほかの子と協力しながら伸びていけるように大人の意識を変えていくことが大切。

- ・小学校に入って5年後、10年後、15年後、社会の変化、世の中の変化に対応できる子どもたち、そういう幼児教育をしたい。幼児教育でやっていることが本当に小学校、中学校に繋がる教育をやってるか、この辺の情報がもう少し欲しい。地島小学校は小学校と幼稚園が同じ建物の中でよくしてもらっている。

- ・どんどん色んなことに挑戦して、頑張ってみて出来なかったけど、周りの人とやったらうまくいったな、先生の話聞いたろうまくいったという経験をどんどんしていく事がより重要。

- ・どの園でも子どもたちは幸せになる権利をもっている。発達する権利をもっている。学ぶための権利をもっている。

【市への要望】

- ・今からはメールや電話相談やオンラインといった新しい形での繋がりが必要。必要な情報をきちんと伝えていく手段も必要。
- ・外国籍の子どもは幼稚園や保育園に就園していない。いろいろな体験をする場がない。日本のお子さんでも未就園の方はいる。宗像市として未就園の子どもを把握して集団生活や社会生活の個別の支援でもよいので手立てを踏んでもらいたい。
- ・特別な支援が必要な子どもたちが様々な公的な機関にアクセスしやすくするような仕組みが大切。宗像市は現在 ICT やテクノロジーをいろいろな業務に活用しているのでそういったものを幼児教育や学校教育、接続の部分でも活用してもらいたい。
- ・特別な支援が必要な子どもが園に見学に行っても、最終的に保育者不足で受け入れが難しいという現状があるので、受け入れの体制を整えていただきたい。

7 その他

事務局から説明

- ・第3回の幼児教育審議会の日程について